

令和2年9月

台風10号の記録

特別警報級といわれていた今回の台風。須恵町でも、300人を超える住民が避難するほどの強烈な台風が町を襲いました。今回の風雨被害は、幸いにも須恵町に人的被害を出すことなく終わりましたが、ライフラインの停止や物的被害がありました。



豪雨対応の経過(概要)

9月6日(日)

4時32分 須恵町に強風注意報発表
14時00分 消防団全分団配備完了
15時00分 避難所開設
15時22分 町内全域に避難準備・高齢者等避難開始を発令、災害警戒本部設置
16時00分 消防団、土のう約1000体作成
16時33分 須恵町に暴風警報発表
17時12分 災害対策本部設置

9月7日(月)

8時00分 新原工業団地、川子団地付近で112戸停電の情報あり。九電で対応
10時56分 暴風警報解除、強風注意報発表。全避難所閉鎖。災害対策本部解散

開設していた避難所と避難者数

避難所	避難者数
アザレアホール須恵	131
地域活性化センター	47
須恵第一小学校	19
須恵第二小学校	30
須恵第三小学校	17
佐谷集落センター	4
上須恵クラフト館	0
川子地区公民館	6
一番田区公民館	2
城山防災会館	23
乙植木コミュニティセンター	13
旅石公民館	0
西体育館	7
山の神区公民館	9
旭ヶ丘区公民館	6
新原公民館	4

今回の台風10号は、非常に強い勢力のまま九州各地を襲い、大きな被害をもたらしました。須恵町では被害を最小限に抑えるため、役職員総出で対応にあたりました。そこで、災害の対応にあたった若手職員から、災害時にどんな仕事をしたのか、その仕事を通して何を思ったのかをレポートしてもらいました。

都市整備課 大原 悠一
災害時 産業土木班
私が主に行ったことは、災害危険箇所の巡回と注意喚起、水路の氾濫を防ぐための土のう作りと設置、倒壊した樹木などの撤去です。都市整備課では、被害を最小限に抑えるため、台風が接近する前に危険箇所の点検を行いました。被害件数は幸いにも少なかったのですが、標識や看板が倒れたり、木が折れて道路上に落ちて通行の妨げになっていました。その状況を見て、災害の怖さを改めて実感し、普段の生活に戻すため、早急な対応がいかに大切かを考えさせられました。

今後の災害時には、より被害を抑えることができるように、今回の経験をこれからの業務に活かしたいと思います。

総務課 岡本 渥平
災害時 対策本部班
私が主に行ったことは、電話対応でした。台風10号は勢力が強く接近前から、特別に警戒するようニュースで報道されていました。そのため避難所の場所や避難所開設状況

難準備についての問い合わせを多くいただきました。電話対応時は新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底するためにマスクの着用やアルコールでの手指消毒を呼びかけました。これらの業務を通して、災害発生時に住民の皆さんをスムーズに避難誘導できるよう日ごろから避難に関する情報をホームページや広報、回覧版などで周知していくと共に、災害に対する自分の意識の強化が必要だと感じました。

住民課 百田 綾香
災害時 社会福祉班
私は主に、避難所に来られた人の受付や案内を担当しました。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、前もって避難所を見学に来られる人がいらつやいました。避難された人はお子さま連れのご家族の他に、単身の人、高齢者などさまざまながいらつやいました。今回の避難所運営では、不安を抱えて避難して来られた人に、安心してもらえるようなグループ分けを行いました。対応の仕方を工夫すると、避難された人の不安な気持ちが和らぐということがわかりました。この経験で気づいたことを活かして今後起こりうる災害にもスムーズに対応したいと思いました。

最後になりますが、今回の台風対応にあたり、避難所の開設および運営にご協力いただいた区長や関係者の皆さま、電力復旧にご尽力いただいた事業者の皆さま、迅速な避難にご協力いただいた皆さまに、深く感謝いたします。

✂️ キリトリ線 このページを切り取って、普段目に付く場所に貼っておきましょう

自分や家族の命を守るため 警戒レベル4で全員避難!

町が出す避難情報と、国や県が出す防災気象情報は、5段階になっています。警戒レベル3・4が発令されたら、地域の人と声を掛け合い、安全・確実に避難しましょう。

警戒レベルと避難情報・避難行動

- 1 身の危険を感じたときは警戒レベルにかかわらず避難しましょう。
- 2 必ずしもレベル1から段階的に、発令されるとは限りません。

警戒レベル 1	警戒レベル 2	警戒レベル 3	警戒レベル 4	警戒レベル 5
早期注意情報	洪水注意報、大雨注意報など	避難準備・高齢者等避難開始 高齢者などは避難	避難勧告、避難指示(緊急) 危険な場所にいる人は全員避難	災害発生情報 災害の発生を把握した場合に、可能な範囲で発令
災害への心構えを高める	ハザードマップなどで避難行動を確認	高齢者・障がい者・乳幼児などと、その支援者は避難	速やかに安全な場所へ避難	命を守るために最善な行動を
防災気象情報(警戒レベル相当情報)	大雨警報 洪水警報など	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報など	氾濫発生情報 大雨特別警報など	

災害に備える チェックリスト

1 情報の取得方法を確認

- 町ホームページ
- 緊急速報メール
- 防災メール・まもるくん
- 気象庁ホームページ
- 防災行政無線

情報源の確認はこちら

防災行政無線の内容を聞き逃した場合は電話でも確認できます。
☎ 0120-8940-55

2 すぐに持ち出したいもの(非常用持ち出し品の一例)

貴重品
現金(要硬貨) 預金通帳
印鑑 免許証・健康保険証など(コピー)

避難用具
携帯ラジオ 懐中電灯 予備電池

清潔・健康のためのもの
救急セット 常備薬
タオル 着替え(下着含む)

非常食など
飲料水 乾パン 缶詰め・缶切り
栄養補助食品 あめ・チョコレートなど

感染症対策
マスク 手指消毒用アルコール
せっけん・ハンドソープ 体温計
ウエットティッシュ

その他
紙おむつ 生理用品 液体・粉ミルク

3 家に備える「非常備蓄品」

大災害時などは、公的な支援物資がすぐに届かないかもしれません。最低でも3日、可能なら1週間分を備蓄しましょう。実際にライフラインが止まったら、どのような困りごとが起こるか、普段から意識して災害に備えましょう。

食料や水(最低3日分)×家族の人数分
 ※保存期間が長いものを買っておき、消費したら補充しましょう

生活用品
 ※例えばポリタンク、ガスコンロ、毛布など、生活に欠かせないもの

4 避難場所を確認

災害時にいつ、どこへ、どのように避難するか家族で確認しましょう

	いつ	どこへ	どうやって
例(洪水)	警報が出たら	親戚の家へ	祖父母と車で
<input type="checkbox"/> 洪水			
<input type="checkbox"/> 土砂災害			
<input type="checkbox"/> 地震			